第34回「理学療法ジャーナル」賞

第34回「理学療法ジャーナル」賞贈呈式が2023年4月15日，医学書院本社で開催された。本賞は，前年の1年間に『理学療法ジャーナル』誌に掲載された投稿論文の中から特に優秀な論文を編集委員会が顕彰し，理学療法士の研究活動を奨励するもの。2022年は29編が受賞対象となり，下記3論文がそれぞれ入賞，準入賞，奨励賞に選ばれた。

●写真　左から湯口聡氏，清野浩希氏，松田友秋氏

【入賞】清野浩希，他：主観的伸張感で実施時間を設定した静的ストレッチングの有効性――ランダム化クロスオーバー試験による検討（第56巻第5号，原著）
【準入賞】松田友秋，他：歩行動作の時間的・空間的パラメータと膝関節の力学的負荷，加速度関連指標との相互関係（第56巻第11号，原著）
【奨励賞】湯口聡，他：超音波画像を用いた末梢動脈疾患における下肢骨格筋の組成と6分間歩行距離との関連（第56巻第9号，報告）

入賞の清野氏らの論文は，臨床で患者から頻繁に尋ねられる「何秒間ストレッチすれば良いか」を検証するために，主観的伸張感で実施時間を設定した静的ストレッチング（ストレッチ）の即時的な可動域改善効果を非盲検ランダム化クロスオーバー試験にて検討したもの。ハムストリングスの伸張性改善が必要と判断した外来患者50人に，①一般的に臨床で行われている時間（30秒）を決めて実施するストレッチと，②主観的に筋が伸びたと感じるまで実施するストレッチの2種類をそれぞれ4セット，別日に実施し，実施前後の膝関節他動伸展角度の変化量を測定することでストレッチ効果を検証した。結果，主観的伸張感で実施時間を設定するストレッチが，即時的に可動域を改善するためにより有効である可能性が示された。患者の疑問に対する回答の根拠をつくる「臨床から生まれた臨床のための価値ある研究」との評価を得ての受賞となった。清野氏は，「普段臨床で行っていることには本当にエビデンスがあるのだろうか，との疑問が本研究のきっかけ。臨床ではどうすれば目の前の患者さんに一番効果が出るのか，皆一生懸命に考え奮闘している。その思いが論文に表れていたらうれしい」と自身の研究を振り返った。

『理学療法ジャーナル』誌では本年も，掲載された投稿論文から第35回「理学療法ジャーナル」賞を選定する。詳細は『理学療法ジャーナル』誌投稿規定（https://www.igaku-shoin.co.jp/journal/551/instruction）を参照されたい。

薬剤師のための栄養療法管理マニュアル

吉村 知哲，寺田 智祐●編

B6変型・頁400
定価：3,960円（本体3,600円＋税10%）　医学書院
ISBN978-4-260-05029-6

評者　名徳 倫明
大阪大谷大薬学部教授・実践医療薬学

病棟業務，チーム医療，在宅医療で活躍する薬剤師にとって頼りがいのある一冊

栄養療法は疾患の治療や合併症の予防に寄与し，患者の予後やQOLを改善する。多くの病院薬剤師や保険薬局に勤務する薬剤師（以下，薬局薬剤師）は，薬物療法に加えて栄養療法にも積極的に関与していく必要がある。しかし，薬剤師向けの栄養関連の書籍はほとんどなく，業務を行う上で，栄養療法の評価もあまりできていないのが現状である。本書は，薬剤師が病棟やチーム医療において栄養管理，さらには在宅医療に積極的に取り組めるように，薬剤師として必要な栄養の知識の他，栄養を評価する時に注意したい薬剤についてもまとめられている。病棟業務，チーム医療，在宅医療で活躍する薬剤師にとって，本書はとても頼りがいのある一冊である。

本書は，「栄養療法の基礎知識」と「症状別・疾患別の栄養介入のポイント」の2部から構成されている。前半の「栄養療法の基礎知識」では，薬剤師にとって必要な，栄養療法の総論，各栄養療法の特徴や投与法，注意点，臨床検査値，簡易懸濁法，在宅栄養についてわかりやすく解説している。これらは処方監査，処方提案，チーム医療に必要な知識であり，病院薬剤師だけでなく薬局薬剤師にも役立つ内容になっている。また，知っているようで知らない不確かな用語を「ひとことメモ」として解説しており，かゆいところに手の届く配慮がなされている。後半部の「症状別・疾患別の栄養介入のポイント」は，「病態と治療→症状・疾患と栄養→栄養管理の介入ポイント→食事療法の介入ポイント→薬物療法→薬物療法の介入ポイント→症例」の流れで構成されており，薬物療法の介入ポイントとして治療薬の副作用チェックをする際の注意点についてまとめられている。症例では，薬剤師がどのような点を介入ポイントとして提案していくかがわかりやすく解説されており，臨床現場で非常に役立つのは間違いない。

これまでの書籍と比べると，本書は「薬剤師目線で書かれている」点が大きな特色となっている。薬剤師が栄養療法にもっと興味を持ち，積極的に介入できるように，また医師や看護師などの医療職からの問い合わせにも回答できるように工夫されている。全編にわたって本文は重要なポイントを簡潔に記載するスタイルで貫かれており，読者は求めている内容をピンポイントで探しやすい。また，図表をふんだんに盛り込んだことで，とても理解しやすくなっている。さらに，薬剤師として情報が不足がちになる食事療法や食品栄養剤についても取り上げているのもうれしい。ポケットサイズのマニュアルなので，白衣に忍ばせておけば，いざという時の戦力となる。本書はまさに書籍のオビの惹句の通り，適切な栄養療法をサポートする心強い相棒と言えよう。

視点　医学部教育にリプロダクティブ・ライツの授業が必要な3つの理由

柴田 綾子　淀川キリスト教病院 産婦人科

2022年11月にFIGO（国際産婦人科連合），WATOG（世界産婦人科専攻医連合），IFMSA（国際医学生連盟）より「全ての医学生に避妊と中絶に関する教育を」という声明が発表されました[1]。避妊や中絶は女性の健康において非常に重要であり，基本的人権に含まれる「リプロダクティブ・ライツ[2]」（註）です。日本では産婦人科の専門領域だと考えられてきた避妊や中絶を「全ての医療者に必要な知識」として医学部で授業する必要があると考える理由を本稿で解説します。

1）妊婦に対する禁忌薬と，確実な避妊法の理解

近年，妊婦に禁忌とされる薬（降圧薬のACE阻害薬やARB，COVID-19治療薬のゾコーバ®やラゲブリオ®等）が，「妊娠に気づかずに」処方された例が報告されています。また，服用時は確実な避妊法が推奨されるバルプロ酸において，わが国ではその処方時の避妊法に関する啓発が不十分であると言われています[3]。このように内科で処方する薬にも避妊法（図）の指導が必要なものがあります。

2）避妊法や中絶法の選択肢の増加

2019年に緊急避妊薬のオンライン診療が承認され，23年5月には経口の人工妊娠中絶薬が承認されました。さらに現在，緊急避妊薬のスイッチOTC化が議論されています。

しかし，わが国の義務教育における学習指導要領に避妊や中絶はなく，医学部入学までにこれらの知識を十分に学んでいません。避妊や中絶は「一部の人だけの問題」ではなく，全ての女性とそのパートナーにとって重要な知識のため，医学部でも教育が必要です。

3）社会と生き方の多様化

以前は「女性は結婚して妊娠，出産するものだ」というジェンダー役割の決めつけがありましたが，今は必ずしもそうではありません。これはリプロダクティブ・ライツの視点からも重要です。医療者として女性患者を診療する際，無意識にジェンダー差別をしてしまわないよう，リプロダクティブ・ライツを学ぶ必要があります。

＊

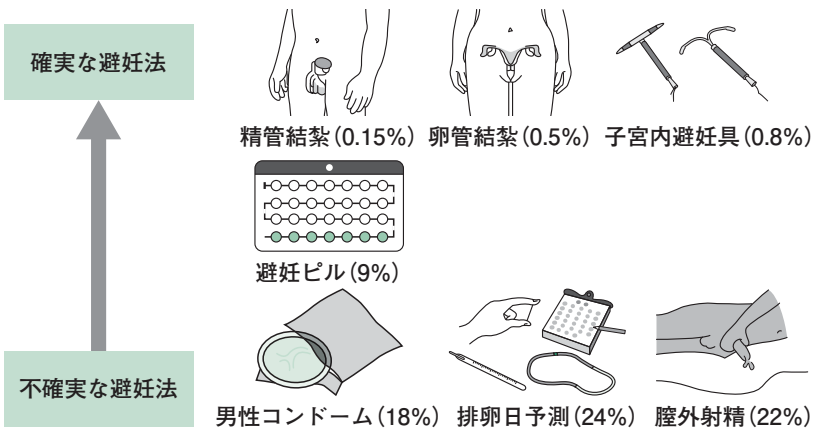
私たち医療者は，個人が持つリプロダクティブ・ライツを尊重し，性の在り方や生殖（避妊・妊娠・出産・中絶）についての自己決定権を支援する必要があります。産婦人科医の有志団体リプラのHP（https://reproductiverights.jp）では，リプロダクティブ・ライツに関する文献を翻訳し，無料で公開しています。明日からの診療や医学部教育にこれらの教材を活用し，リプロダクティブ・ライツの理解が深まることを期待しています。

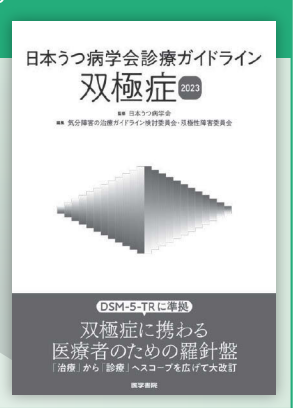
註：避妊，妊娠，中絶について，誰からも強要されずに自分自身で決めることができ，関連する情報や医療サービスを受けられる自由と権利。1994年の国際人口開発会議で提唱された。

●参考文献・URL

1）FIGO. Joint statement of support for the inclusion of contraception and abortion in sexual and reproductive health and wellbeing education for all medical students. 2022. https://x.gd/qEtcl
2）UNFPA. Programme of Action. 1994. https://x.gd/pnAzN
3）Pharmacoepidemiol Drug Saf. 2019［PMID：30854762］
4）Trussell J, et al. Efficacy, safety, and personal considerations. In：Hatcher RA, et al. Contraceptive technology. 21st ed. Ayer Co Pub；2018.

●しばた・あやこ氏/2006年名大情報文化学部卒。世界遺産を巡って15か国ほどを旅行した経験から母子保健に関心を持ち，群馬大医学部に3年次編入する。11年に卒業後，沖縄県立中部病院での初期研修を経て，13年より現職。女性の健康に関する情報発信やセミナーを中心に活動。著書に『明日からできる！ウィメンズヘルスケアマスト＆ミニマム』（診断と治療社），分担執筆に『レジデントのための急性腹症のCT（連続スライスで学ぶ）［Web付録付］』（医学書院）など。



●図　各避妊法とその避妊効果（文献4をもとに作成）
わが国における避妊法を抜粋した。各避妊法における年間当たりの妊娠数をパーセントで示す。

双極症に携わる医療者のための羅針盤。　医学書院
「治療」から「診療」へスコープを広げて大改訂
日本うつ病学会診療ガイドライン
双極症 2023
監修　日本うつ病学会
編集　気分障害の治療ガイドライン検討委員会
双極性障害委員会
詳細はこちらから
■B5　2023年　頁256　定価：5,500円（本体5,000円＋税10%）
［ISBN978-4-260-05317-4］